
グランマ=ファイル

氏川将士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グランマ＝ファイル

【Nコード】

N4042D

【作者名】

氏川将士

【あらすじ】

僕は毎晩あの時間を楽しみをしていた。薄暗い中で、暖炉の炎だけが鮮やかに燃えていた。炎に浮かんでは消える婆やの物語。それは少年の僕の胸をときめかせる一夜の魔法でもあった。一応、オムニバスの短編集となっていますが、話が所々リンクしていきます。

プロローグ(前書き)

始まりは、あの部屋から……。

プロローグ

「さあさあ、お話の時間だよ。ミシエル、トイレにはもう行ったかい？ ロザンナ、悪いけど毛布を持ってきてくれるかい？ そう、その黒いやつだよ。ほらほら、もっと婆やの周りに集まってちょうだい」

窓から虫の音が聞こえてくる薄暗い部屋の中、僕はドキドキしながら婆やが話すのを待っていた。婆やが子供達を集めだすと僕は我先にと列の一番前に座り込み、婆やが話し出すのをいまかいまかと待ち望んでいた。

子供達が集まり終わり、婆やが話しだすのを待っていると、もう、暖炉の薪がはぜる音しか聞こえない程静かになった。時折、誰かの欠伸の音が聞こえてくるけどね。穏やかな暖炉の暖かみが子供達を眠れ眠れとしたたかに誘ってくるなか、僕は^{まぶた}瞼に力を入れ、必死に婆やが話すのを待っていた。

暖炉の炎がゆらつと揺れ動く度に、不思議と婆やの表情も変わっていくように思える。安楽椅子に座る婆やは、いつもの優しげな婆やとは、また少し違った風に見えた。

まあ、つまるところ、僕にとってその空間はとても不思議で、魅力的なものだったのだと思う。

「あらポール、あなたはその場所がお気に入りなのよね」「うん！ だって、ここが婆やの話が一番よく聞こえる所なんだもの」

「まあ、うれしいわね。語り手としてこれ以上嬉しいことはないわ」「ねえ、婆や。早くお話してよー！」

「これこれ、あんまり急いじゃいけないよ？ 時の妖精さんが休み無く糸を紡いでるっていうのに、これ以上急かしたら体を壊してしまう！ ……それでもだいたい頃合いのようだね。お月様はご拝聴かい？ さあ、お前達、今夜はどんな話が聞きたいんだい？」

『砂の盗賊王！』

『王様と十三人の妖精達！』

『太陽の道しるべ！』

『エリキシル大騒動！』

みんなのリクエストに婆やは少しだけ考え込んだフリをして、そして、不適にニヤツと笑うと、いつものように、こつ切り出した。

「昔はねえ、こんなにも不思議な話があったものさ……」

一夜目 『王剣は誰の手に?』

少しだけ、歴史の勉強をしようかの？

何百年も前のことじゃ。まだ『国』という型ができるもつと前に、この大陸の北東に位置するドーリア山脈から『羽を持った人』が攻めてきたのじゃ。彼等は人間を十人あわせたよりもなお大きく、空を埋めつくし、黒い波と恐れられていた。黒い波に飲み込まれれば最後、あとに残るのは砂と灰のみだったからじゃ。

『羽を持った人』をどうにかして山脈の向こうに退けたかった我等の民族の王は、他の民族と話し合い、ある一振りの剣(けん)を造ることにした。オーヴァンの民は特別な金属の塊から刃を研ぎ、トランの民はその刃に身合(つか)う柄と装飾を引き受け、そして、我がロイルルの民は最後にその剣に魔法をかけた。

剣が完成したその瞬間、急に空が暗くなったと思い、民は空を見上げた。見ると、何か黒い波がうねっている様に見える。

『敵襲だ！ 皆は地下空洞に避難し………!!』

誰かが叫んだ声は途中で掻き消された。『羽を持った人』が小さい村一つ分ほどの火球(ファイアーボール)を飛ばして来たのじゃ。その豪音は民があげた悲鳴さえ焼き付くし、あとにはまるで巨大な墓場を思わせる穴がポツカリと空いていた。

再び『羽を持った人』が火球を飛ばそうとしているのを見た我等の民の王は、素早く剣を握り締めると彼等に向かつて、自らの命と引き換えに、古代に封印された禁呪文を唱えた。

辺りから白い光が全て消え去ったとき、空は明るさを取り戻し、あとに残っていたのは一振りの剣のみだった。

後に『羽を持った人』は悪魔や魔物と呼ばれ、その一振りの剣は王の名にちなみ、『王剣』、あるいは『アイージャの聖剣』と呼ばれるようになったのじゃ。

一夜目 『王剣は誰の手!?』 (後書き)

いよいよ始動!という感じでした。少し凝った演出をしたいなーと思
い書き進めています。が、読み難いなどのご指摘がございましたら、
作者の方にご連絡下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4042d/>

グランマ=ファイル

2010年10月28日07時58分発行